

## 観察日記が本に

相馬 司君（日産第1）



8月中旬、一冊の絵本が出版されました。本のタイトルは「ボースケかんさつ日記」、この絵本の作者である相馬司君（北小6年）に話を伺いました。

「ボースケかんさつ日記」は、もともと、相馬君が4年生の夏休みの自由研究として、学校に提出したもので、先生から「良くできているので、全校生徒に読ませたいと思います。」と言われ、お母さんがワープロで打ち直し、写真を付けて改めて提出したそうです。

その後、新聞に掲載された、出版社が募集する「えほんコンテスト」

## 今月の輝ける星

の記事が目にとまり、「きれいに作り直したことだし応募してみようかな」と軽い気持ちで応募したところ、いくつかの審査を通過し、ついに「共同出版しませんか」という電話がかかってきました。その時のことを、両親は「とても嬉しかった」と話していました。本人は「ふーん、本になるのか」と、あまり実感がわかなかったそうです。

「ボースケかんさつ日記」は、相馬君とキジバトのヒナ「ボースケ」との出会いから、巣立つて自然に帰るまでの約1か月間の観察日記です。学校で巣から落ちていたボースケを助け、最初は育て方も分からず奮闘する様子、成長していくボースケの様子、そして別れと、自分で見たこと感じたことを素直な表現で書かれています。

相馬君は、「最初、かわいいという気持ちで飼いだめたのですが、別れの時は寂しかったです。今でも家の近くでキジバトを見かけると、ボースケかなと思ってしまいます。」と話していました。本は、お世話になった人や学校、図書館にも寄付されました。機会があればいかがでしょうか。

## 広報紙で見る上三川町50年

### 上三川音頭と盆踊り

7月31日、上三川通りで「サマーフェスティバル in かみのかわ」が盛大に開催されました。このサマーフェスティバルが開催されるようになる前は、8月14日前後に「盆踊り」が行われていたことを記憶している人も多いことでしょう。

広報紙の表紙に、「季節感」や「前月の行事」を扱った写真が使われるようになり、「盆踊り」の写真が初めて使用されたのは、昭和50年9月号でした。この年は上三川町合併20周年にあたり、5月に発行された特集号には、この年に募集して作られた「上三川音頭」の歌の紹介と踊り方が写真で紹介されています。9月号の表紙に写る皆さんも初めての「上三川音頭」を楽しんだことでしょう。

現在では、町全体での盆踊りは行われなくなり、「上三川音頭」を見たり聞いたりする機会が少なくなりましたが、機会がありましたらぜひ聞いてみてください。歌っているのは、大川栄作さんと島倉千代子さんです。

